

西洋道中膝栗毛

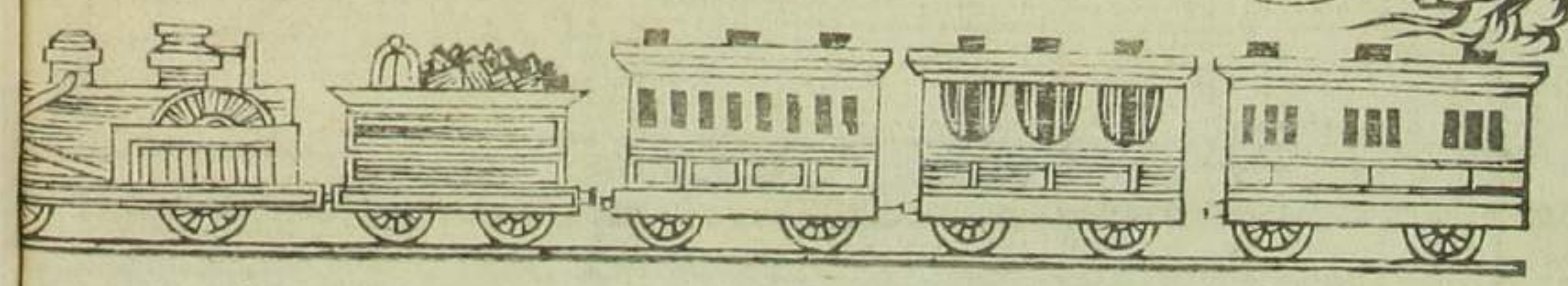
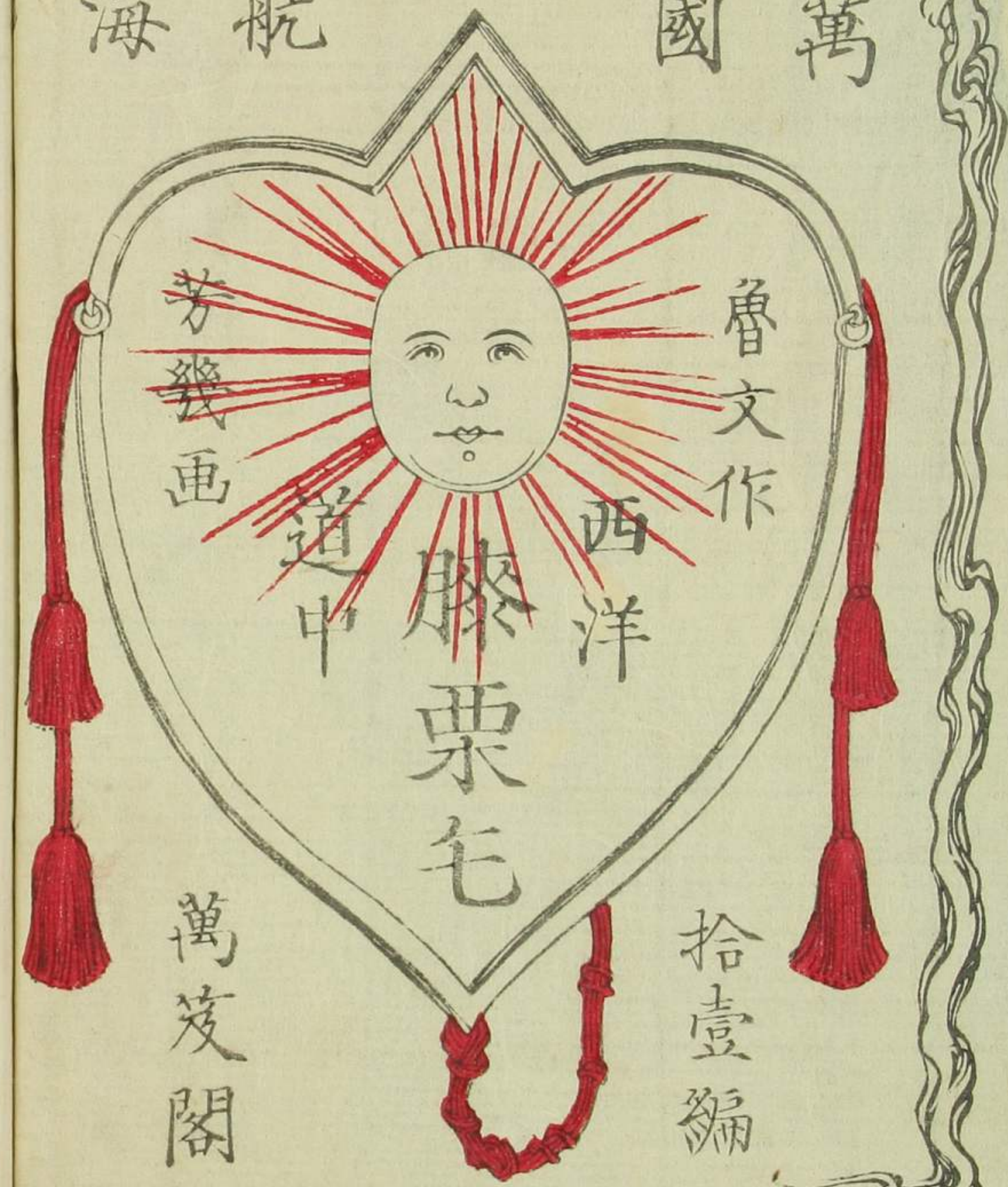
十一編
上

14
1260
21



184
1260
21

萬國航海



西洋道中膝栗毛第拾壹編叙

歐羅巴諸國ゆも小説草冊子の等類

然もども稗史戯作たのど支那風ふ卑め号

ず平等に書籍と呼るり抑小説の談趣向

架空ふ出れども事情ふ於けるや世態ふ反す

る事な故もるに開化の見をよめと論る時ハ

類聚

西洋道中

小説も大道の祭はして寓言必だ催實乃證
 たりあんぞ戯れのならんや唯文章に雅俗
 あるものて學者の忌とて後今日ふ至りて
 迂遠の漢学ふ終身温奥を極めんより寧
 年歳の小説と讀書せんうた理ありとて
 自今以て稗史の号を廢し戯作者の戲の

字を除き著作師或る著述家と称て可な
 らん友人假名垣氏發義勸懲の著述談笑
 諷諫の意匠茲ふ歳ありと都て凡情を穿つ
 や地道の如く流行ふ疾こと傳信機乃音便
 を待たば他の知らざる深意を探索眼乃
 及ばざる状景を見出ば至りて毎編者

官いとの肝き膽もを冷さむらら令む言ぐ々々奇き々々妙まう句く々々新あら発た

明あいら曾ろて魯ろ子しが筆ひつ頭とう彼かの自じ助じよ論ろんは所謂すゐ下か

情せむらをりて政せい體たいとほる乃な基き本ほん中ちゆうて有いう名めい無む

實じつの腐ふ儒にう輩はいと同日どうじつの談だんめあはば僕がく當たう編へん

と毎まい部ぶ閱げんしと感かん心しん浅あさくは依よる簡かん端たん

は数すう行かうと譜ふし活かつ眼がん同どう好かうの披ひ見けんを進すま勸ま志し

ゆるるこころあかり

壬申孟春

葛峯久保田重信識



ふり喜き東とう風ふう以い香かう

と子こ方かた雅みやび母ははの



西洋書毛余

西洋膝栗毛十一編自序

方今開化一時に進む。余輩僥倖に學ばざる。子曰
 迂遠を去り。經驗窮理の洋風に傾き。市街の兒童
 等、やがて女子坊主の支那頭と。殘裁の歐羅巴流に
 一變し。孔氏の遺書をへくや。と。英字佛の横文エビシ
 四百余州をあんらる。萬國世界五大洲。天地の理を
 知る。開端は云土の。日出度き

御代は新玉の春

待ら得たる心地よ。なん。而して。廢藩舊知事乃
 公達子も。無僕獨歩ふ世間を見知り。歸農の扶持
 ち飛鳥河水ふ流。と。商法開業。父母在せども遠
 く遊び。艦砲一發二千里且道を聴くとも。夕ふ死はる
 と可なり。とせ。牛肉を食。ビールを飲。體
 と壯健。ふして。壽を保ち。利を得。國を富。る
 成以。今日乃報恩。と。嗚呼。楚の三閭大夫時

と得ずして清きも浄しと称するに難く伯叔
 世ふ先行く潔きも又潔きと讃はるる況
 や目今ふあつとや故もあふ當世の時務と
 知らば孔氏の門ふお茶を挽くとも中華の仲の
 町張と潜上る徒も儒者馬鹿等しいあらん
 めて季の偏固の局見世よ切と賣よ下落も有
 るなし任他我が姫氏國も開闢の突出しあり二

ツ星乃位と落さん今ふ及びと細見の坐と下ら
 ざる一等官版図の内ふ居るがごとく踏と開もた
 る外八文字その道中の駒木履と鞆も換たる
 膝栗毛十一編乃長史を御覽の程も御らん
 だるがらがこれ橋のかんは屑紙屑箆と思ひの
 外御見すとも梓店へ次も未發欵と御は
 こびも全盛界の御國恩ごもああり難り

嬉悦よろこんご謝まうす

明治第五年壬申孟春第一月初二日
横濱の妓院新玉樓乃立退ふ初夢と
結ぶの間歳玉の鼠寸楮ふ試筆

青陽山人

假名垣魯日文誌



西洋果巻十一



Handwritten text in the top left corner of the right page.

北弥次 西洋道中栗毛双録



作者假名垣魯文述



同 かんらん



利籠王府



画工一惠齋芳幾画



Handwritten text below the boat illustration.



Handwritten text next to the boat illustration.

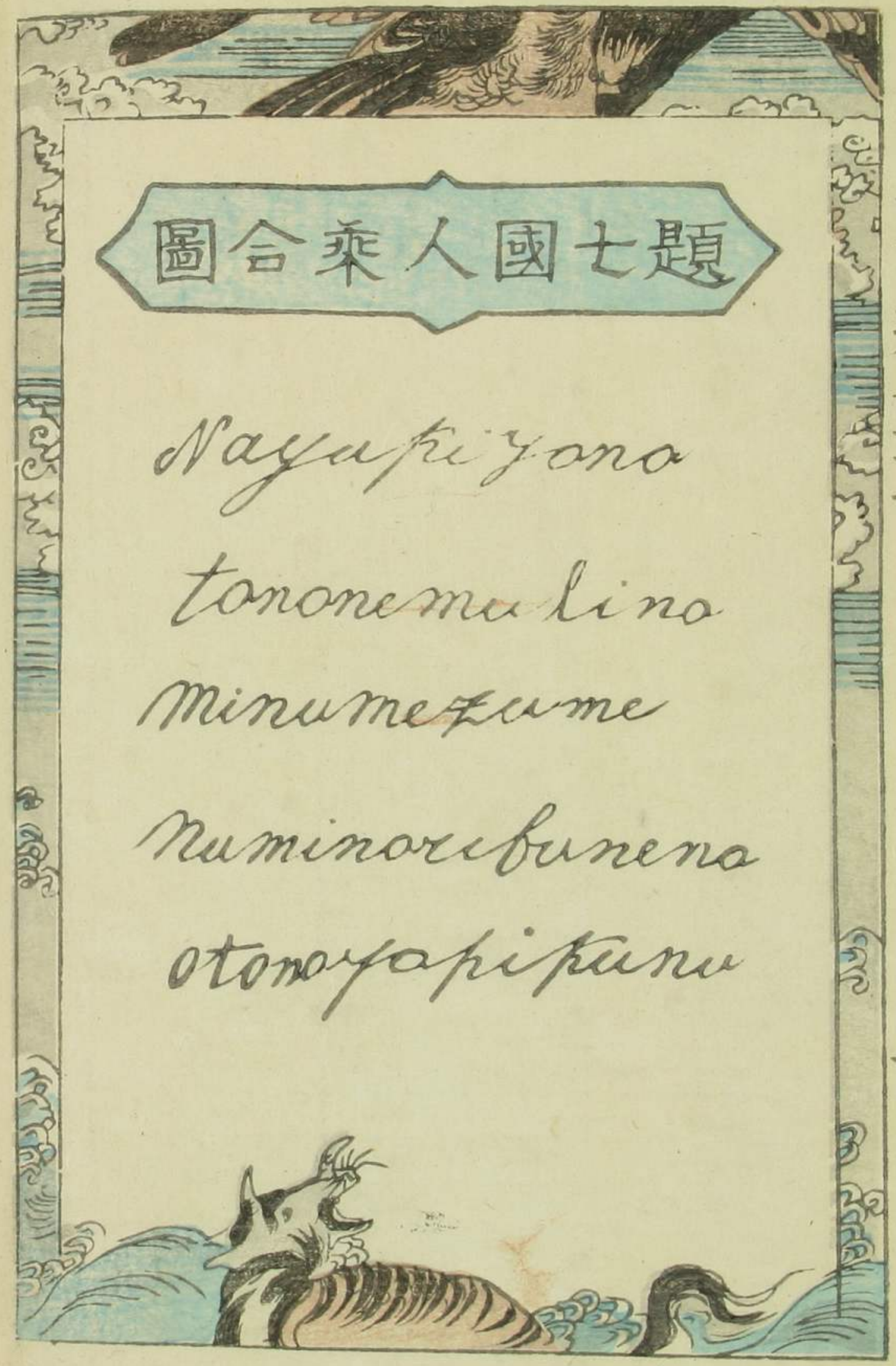


印度 せいろん



題七國人乘合圖

Nayafiyano
tononemalino
minumekume
numinocubunena
otonoyapipunu



西洋道中膝栗毛十一編上

東京 假名垣魯文著述

朱小交まが紅海の水も深し我國人西洋航海の者個
る不圖も糸組の跡次第北ハの二人りの者が馬車トより
落一事件ありと心たのらずも狭路の府中あ五
六日逗留あり一彼等が怪我の愈る及びて再蒸氣
ふふあなるく亞歴散大の地ふ古器物を二管見せむを
目録ありしとよらりて博覧會の好様會ふ遅れ

んことを計りてたゞち飛舟ひきやくせんと名海うみより地中ちちゆう
 海の堀割ほりわりふまじませマルタ塔たふちまうくジブラルタル
 おおんとすけ同途程どうつう八百五十余里ち七日ふ達たつすむし
 おも船中せんちゆう例日れいじつのゆく海上うみ無事むじの業合ごうあひをる通「チイ
 行ゆひさん僕がわちのゆの跡あとりかしのことわねんがお角かく
 洋航やうかうして世界せかい有名ゆうめいの袂祿たいろくのピラミドとて見物けんぶつ「ねん
 のが迷憾まいくんダヨころわア全まるごとく北きたさんのおうげご子こ北きた「
 イ通とさんかめん未まダカイロの一件いっけんを執念しつねんゆる思おもッ

てあるのろ子こ「あふサピラミドとてんねんくらサ北きた「
 めごとの迷恨まいくんふ思おもひまじちわアおまごめが窓まどイせ月つき已ひ
 ア中ちゆう並ならりをとこからそんなことわ忘れわすれくあま
 ツの時ときふお恨うらまわれちわア飲のごぶ酒しゆを吐逆ひさやらる
 めんだぜノウ跡あとはさん「アハ「成程なるほどよめんあや
 解げせめん今通いまとさん迷憾まいくんだと云いつたのを迷恨まいくん
 と夢まいたのどらうぐあんとわ跡あとりおのころいあ
 漢語かんごだヨ通と「ころわア僕があわまのりダあさんわ

西洋要略 卷十一

ア漢修の禁物だツケアハ、北「何サ息子ならん堂
 幕さる人二年断たが漢語るら初編くら食つけ
 ておやすがおんとおんとい人ごとのまがけら
 ツタ「あしし息子せん合やう彼家ぞ漢語せん
 食やア遺憾だとおんくらある同遠へありがら
 だ通「それのおあきとしてナイく高者どんおめ遣
 のお方と一処お蒸氣車でピラミトをとん物くたり
 アレキサンデルへも行ツことくらだが愛ツことごと

有ツたろ子高者そらく「イヤ大ありく山とそわり
くらりありはらん北「チヤあつら洒落るぜ先生入沙汰
らとあよとりの口合「ハアおさんおめ入洒落の先生せんのつりうねあ
 めきとらりおつ習ちびる人だ「高どんのりうのるあ
 めわれがよあ達ツタゼ「そりやア初学院の雀リ
 ドルをさ惜るだ北「病おまのふふ赤くなる子先
 生のあわれだけあつて北ね人あめまだ「ら
 出すふサツせらるるツたらら通「出病病う鶏

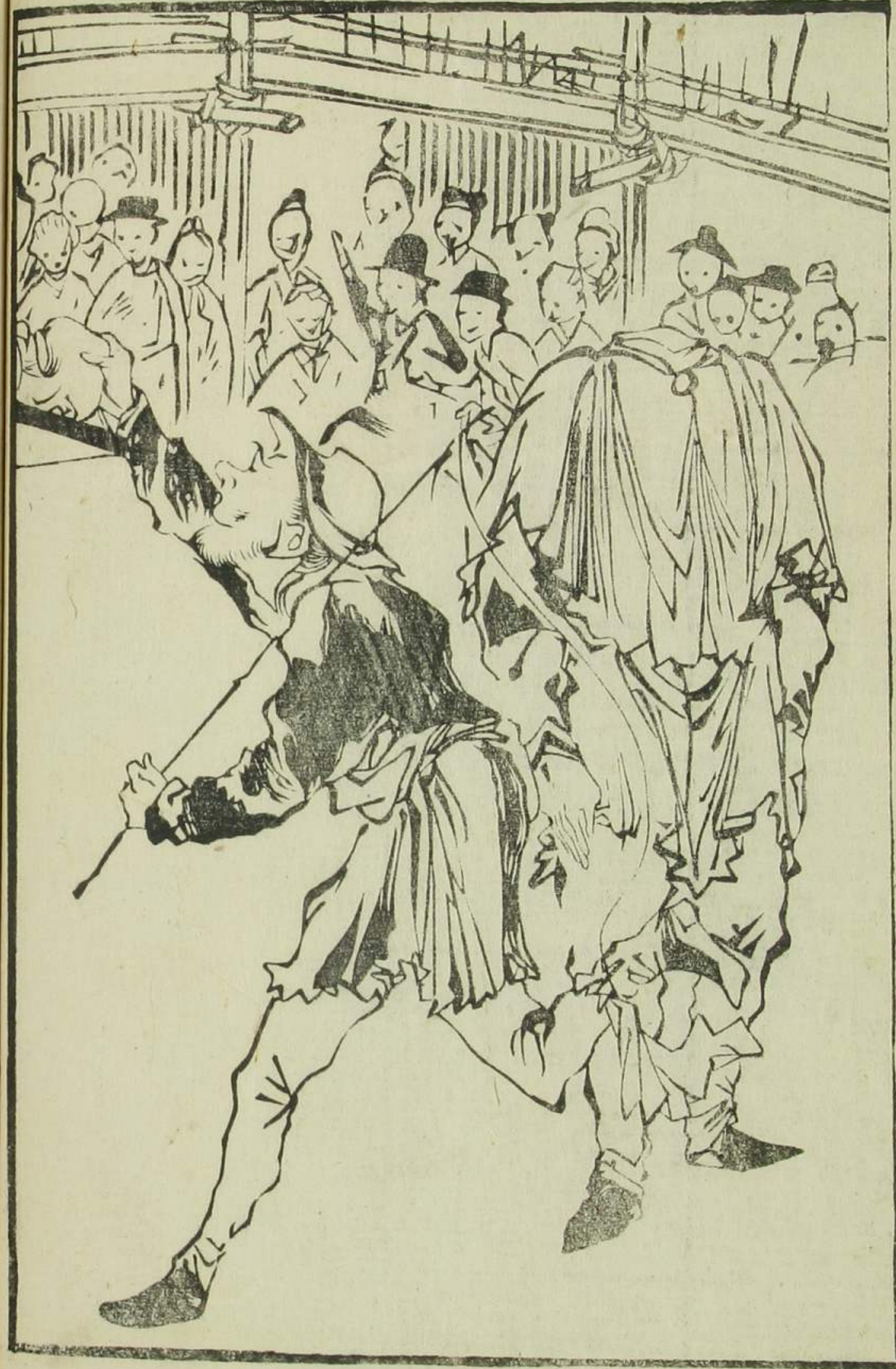
冠^{クワン}ろ^ロ 弥^ニ 志^シあめ^アの^ノか^カざ^ザの^ノう^ウだ^ダら^ラ 一^一ふ^フど^ドう^ウだ^ダら^ラう^ウ
 一^一コ^コウ^ウ一^一そ^ソう^ウた^タて^テつ^ツけ^ケく^クあ^アわ^ワれ^レら^ラせ^セち^チあ^アア^ア
 あ^アま^マの^ノ妻^メへ^ヘの^ノ道^{ミチ}ら^ラお^オ入^イれ^レあ^アま^マの^ノ忽^{トキ}ち^チ放^{ハク}ゆ^ユと^ト
 一^一だ^ダら^ラう^ウ通^{トウ} 一^一あ^アん^ンだ^ダ地^チ口^コの^ノ運^{ウン}坐^サを^ヲそ^ソく^クあ^アめ^メら^ラう^ウ
 だ^ダま^マあ^アわ^ワれ^レら^ラあ^アあ^アれ^レと^トして^{シテ}ま^マど^ドん^ン名^ナ所^{ショ}見^ミ物^{モノ}の^ノを^ヲほ^ホじ^ジ
 い^イど^ドう^ウだ^ダ 弥^ニ 一^一チ^チツ^ツト^トそ^ソの^ノこ^コと^ト 北^キ 一^一羽^ウ織^ヰと^トあ^アわ^ワれ^レる^ル
 ひ^ヒど^ドう^ウの^ノど^ドい^イヨ^ヨ通^{トウ} 一^一あ^アぶ^ブま^マの^ノめ^メ入^イや^ヤう^ウた^タく^ク 高^{カウ} 一^一あ^アま^マの^ノ物^{モノ}
 の^ノを^ヲほ^ホじ^ジの^ノか^カあ^アま^マの^ノ旁^{ハタ}が^ガ面^{オモ}白^{シロ}イ^イ子^コが^ガぬ^ヌあ^アは^ハら^ラう^ウと^トこ^コ

び^ビる^ルあ^アら^ラ見^ミ蘭^{ラン}の^ノ下^カ道^{ミチ}の^ノあ^アん^ン物^{モノ}倍^ハり^リ仕^シら^ラん 北^キ 一^一チ^チリ^リち^チん^ンと^ト
 チ^チン^ンツ^ツち^チん^ンく^クイ^イヤ^ヤハ^ハツ^ツバ^バタ^タく^クバ^バツ^ツタ^タリ 弥^ニ 一^一け^ケ籠^{カウ}の^ノつ^ツけ^ケと^ト終^ハ
 強^{カウ}者^{シヤ}が^ガ侍^{シヤウ}の^ノ祈^{イノ}禱^{トウ}を^ヲま^マする^ルの^ノご^ゴか^カら^ラる^ルあ^アら^ラう^ウ一^一下^カ道^{ミチ}の^ノあ^アま^マ
 放^{ハク}れ^レり^リ妻^メを^ヲあ^アら^ラう^ウと^トも^モ使^シ者^{シヤ}を^ヲま^マして^{シテ}す^スら^ラあ^アる^ルあ^アま^マに^ニせ^セ
 通^{トウ} 一^一あ^アま^マら^ラう^ウだ^ダん^ンく^クア^アあ^ア航^{カウ}海^{カイ}紀^キ行^{コウ}へ^ヘあ^アる^ルあ^アま^マの^ノ父^フは^ハじ^ジめ^メで^デ
 を^ヲあ^アら^ラう^ウと^トあ^アら^ラう^ウの^ノあ^アま^マに^ニ 一^一ア^アウ^ウラ^ライ^イ一^一お^オ角^{カウ}を^ヲあ^アら^ラう^ウと^ト
 ま^マする^ルと^ト侍^{シヤウ}ら^ラう^ウの^ノあ^アま^マに^ニせ^セツ^ツう^ウへ^ヘま^マも^モン^ンだ^ダう^ウと^トア^ア一^一烟^{エン}ふ^フ巻^{マキ}う^ウと^トあ^ア
 う^ウく^ク海^{カイ}を^ヲあ^アら^ラう^ウの^ノあ^アま^マに^ニせ^セる^ルの^ノダ^ダ子^シモ^モウ^ウ一^一あ^アま^マの^ノあ^アま^マに^ニせ^セる^ル



歐羅巴の演戯前
 狂言首賣と観物の
 略圖

悪者様と喧嘩



らくが廃止ダ北「あやま
サテ「次のあやまれ葉末の
ま「上へ行くお船ダ北「ウ
レ「いりく「あ「ま「がサ彼時
モテルさん案内で下南
助「あ「が北「を「あ「の中だ
止「ま「く「ね「鼻「の「巾「と「鼻
ツ「付「けて「借「七「どん「ふ「自「己「

こ「馬「車「で「ハ「イル「の「か「け「あ
先「系「の「あ「い「方「の「何「あ「い「は
中「と「通「り「越「して「こ「里「を「い「く
が「あ「る「の「だ「が「実「の「大「
つ「く「か「し「に「飲「北「から
だ「い「を「言「あ「だ「ま「の「の「く「
ら「ゆ「の「か「ら「ゆ「の「そ「の「大「ま
將「八「割「を「去「た「と「い「ひ「

西洋果 二二二

「東「西「く「く「だ「ま「あ「つ「て「ま「い「ら「三
「そ「う「だ「ら「う「通「「や「ま「ほ「い
「さん「と「你「の「さん「北「八「さん「の
「さ「ら「い「出「つ「け「こ「後「で「船「方「の
「船「方「の「名「を「言「う「た「せ
「して「女「達「と「人「た「右「と「あ「い「ひ
「別「當「人「の「異「つ「つ「が「お「七「人「あ「い「の

「ぐ「カ「イ「口「の「市「街「へ「出「つ「け「た「が
「つ「た「う「知「し「ね「入「ら「カ「イ「口「の「市
「う「り「の「と「彼「の「ピ「ラ「ミ「ド「の「石「塔
「通「る「の「の「ご「子「 汝「 港「大「石「ゆ「よ
「た「の「く「ま「の「地「づ「る「よ「通「ら「う
「テ「そ「れ「ら「ら「子「ど「う「し「タ「ま「ど
「サ「ふ「目「の「つ「の「目「が「あ「い「て「七
「お「い「北「目「の「目「が「ひ「の「つ「り「け

へりわアペロリと舌と吐いた
さる敷物の様馬麻小似るぬ
のびろろした面つたがるさ
りへる美男だよ他のことへは
自分の面と写してゐるおれ
へる神楽假面の沙吹ダ北「大き
色も赤ねん」鏡面赤の
北「十二ヶ青と赤の鼻ツたらし

女のごお棒め通「そりわ〜ま
まらふるあからどらゆわのらね
ねへてあへぐまのせツけ入るらね
のらちの口と吐するらとツち
せらうカイロからアレキサンデル
まねららら傍ら口と吐せ
と吐すことと定ぬらせ北「借金
つねって舌と巻いてあ耳を洗

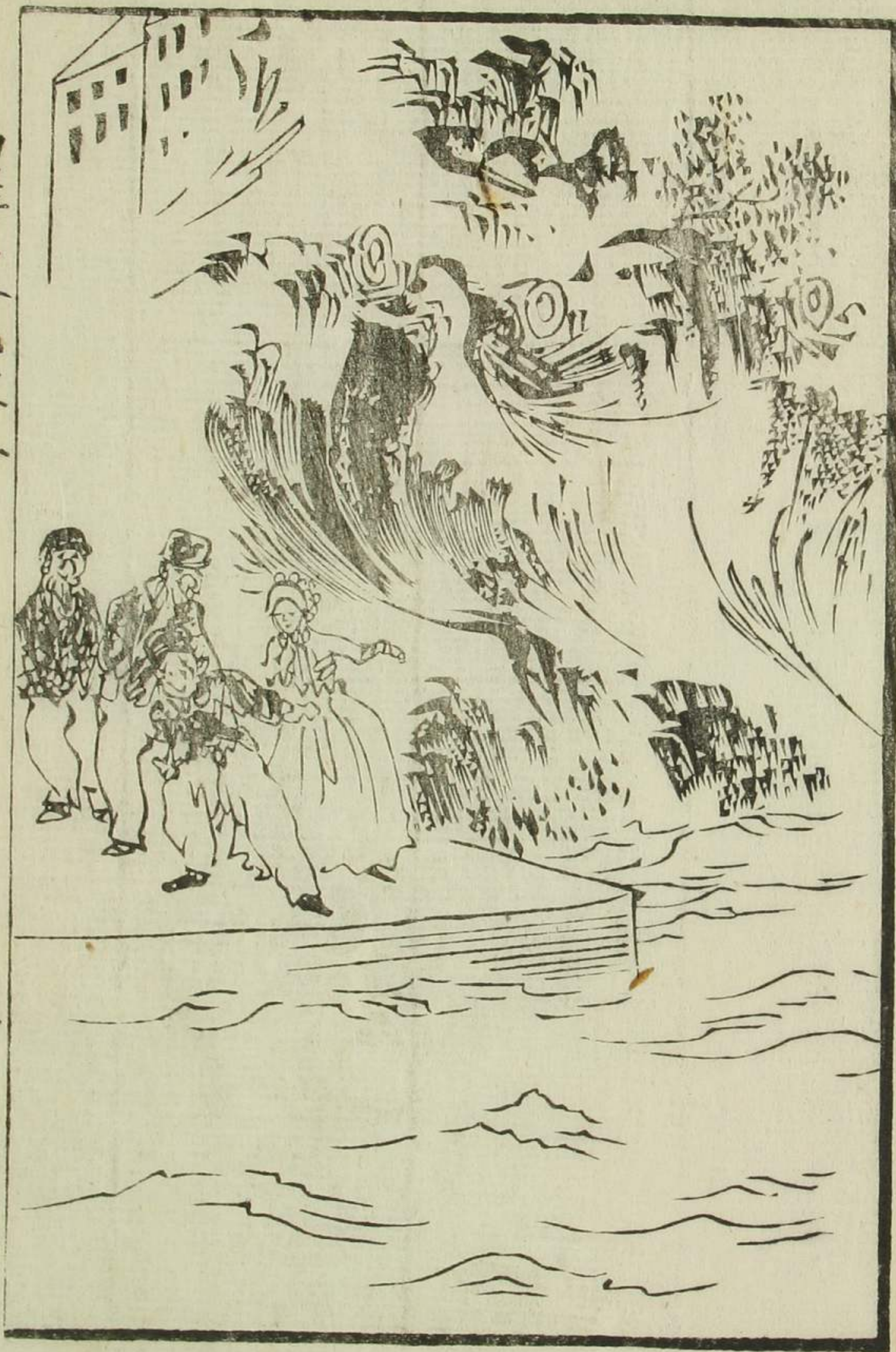
西洋楽毛十一

北「もどんの西の
白から。こラミドよりそ
ツたぜも「イ、ヨ〜か
〜とガラス障子で先
ベツかりらるらあめ
おあせ信ヨ男あので
強淫どまるだららら
あま「あんダけらこ

北「さんぐ十八番どむ
北「やあんの大人氣
まの〜〜ちのらア信後
らヨ通「トキニ郵まわ
〜のたぶら
新貨幣十二錢の信ひ
〜イちわアらの端と
〜の〜〜

ん坊むらがる位せいの河くわ系けいで一いち株くわと二百にひゃくどど買かつた紙かみの烟たばこ
 その入いしと金かね中ちゆうで張はつと編あみ幅はら傘かさを益とくしたと言いつて
 島しま船ふねの二に百ひゃく五ご十じゅうをかりゆこぶしぬらしあやうし家あやうし方かたふ叱あつら
 きたのにおしうつたヨ通とほハアそれらましまぐみ
 馬車ばしやへまの込こでアレキサンデルへこぶらのるみままイ
 う方かたぐ一いち尺ぶち物ものあさぐけふんエジプトの北きた岸がしゆあたる
 港みなとど地ち中海ちゆうかいふ臨りんんでゐる土つち地ちどそらさけ海うみのゆじ
 の洲しまとよろうつととあまのりう洲しまとあまのりう地ち

中ちゆう海かいとらゆそらううらが貿易あひかりの島しまと入いるまいりやうま
 大港おほみなとサ市街しちがい中ちゆうふ戲場あそびばがある妓楼あやうしもあはしある彼から
 運た運たで思しつ坊ぼうが珊瑚さんご珠たまと賣うつてゐる様よう子の日ひかの
 縁えん日ひも入いる鬼灯おにづきとらるわらだ子ことらとせ居ゐるは
 中ちゆうのてゐるものんだらうあやうし親あやうし方かたがよまののたひふひ幕まくら祝いわい
 うらとらあものぐ違ちが入いつてゐると今いま幕まくらがあはしあるある
 こで知しらせの鈴すずがガラがららととゐる中ちゆうの美みの異い人じん
 がパンのはしうああトとなないで舞ま臺たいと中ちゆうのつるのヲ番ばん



○倭客三名
マルタ嶋江
上陸の圖

通次

北八

弥次



附よしうナと夢ちぐえたグイヤ番附や繪草紙るぞ
 の桐板ぐ細密るのたがまのむむる様文をうぐら
 をり張らねくら買るあつたぐそのらち終ぐまげ
 くたあるのが幕めぐはよらとんえく椅子へ腰をひ
 て程言る程と役人留るを後まのげたぐこれもおぼ
 く張らず仕舞でむむとらよく幕ぐぬいたとる
 ひるせん程言の横渡ぐ見く首賣サ留るあひだ
 あひだえヲルゴールが留るあつてトント日本の能の程言

を日るわらサ子北ユウクもあきんらびんぬ他を
 馬麻ふまきるづの目ピア程狼十二錢の代金があそめし
 ちよらぐむくまきるのを終止つて體てあわあらんが
 け方ぐつねねることたといつて黒ン傍がさんごあめをとま
 てあるのせ之君の中まらぐ。ハンのよーうナとまらつてま
 むんぞとゆうらあそらあまイちわアあられねんホニえ
 を食つた男だぜ。チヤ何も知りもあねんをふあつら
 朱と黒るひるぐそれあわあめ人アレキサンデルへ移つた

こゝろあるのつ子 跡
り海りもどんの
ダのウ通さん通 僕
あつら 結局をどう
コウ高文化の波をよ
ナニく芝居の一件が
実録サハテ茶利が
あつら ちのちアチ

とうだつあや
と毎日素直ぐ暗
ねへのサけあうちや
やア脱走ダトそのま
だんくるあまがう
麻ゆしとびつるぜ 跡
かりあてあまアナ 通
ンデルの市街をかんぬ

つてもおぼろねど
ほしほぶのつるど
も先刻うらま
ららめうらま
のららと虚のま
まじかまのけう
そのうねんあやア
るんの舟のことだ

んダ通「イヤ他のこと
紀であるのだうら
くあめがまの
したうとまごとのなり 北
あつらアゴツてゆけど
それだうら供七
一休僕がカイロの
おねえら 傳聞の

わアあんの
男の助
よららつて
てあつらコウ
わめるせん
あつら外のゆ
伴の陰まめ
其も虚だうら
りてる遠
あつられち
小野郎めエ
した者と馬
とけんを
ド」とアレキサ
も紀行へ書

西洋果毛十五
りてる遠
あつられち
小野郎めエ
した者と馬
とけんを
ド」とアレキサ
も紀行へ書

留^{とめ}むらうとあたらうら^{はな}奴^{やつ}の思^{おも}弄^{ろう}されたのが好^{こう}事^じあたふ
不如^{あらず}先^{せん}非^ひく^べ北^{きた}せん^びの蜜^{みつ}柑^{かん}の皮^{かわ} 一^{ひと}を^を一^{ひと}の^の虚^{うつ}の皮^{かわ}が
皆^{みな}いとあれたまらア^ア兵^{へい}ト^トなる^{なる}イ^イの^のだ^だが^が一^{ひと}首^{くび}で^でた^たわ^わた
ま^まく^くた^たび^びふ^ふ不^ふ案^{あん}内^{ない}ある^{ある}道^{みち}程^{ほど}も

だう^{どう}地^ち理^りと^とあ^あま^まつ^つま^まの^のあ^あひ^ひさ^さり

通^とり^りあ^あり^り彼^か奴^{やつ}の^の口^{くち}の^の達^{たつ}者^{しや}ある^{ある}あ^あわ^わア^アあ^あわ^わぶ^ぶう^うま^まの^のヨ^ヨ北^{きた}そ
こ^こで^で自^{みづか}己^ぢの^のこ^こじ^じつ^つけ^けわ^わた

小^こ野^の糸^{いと}の^の着^{せう}的^{てき}と^とあ^ある^るど^どう^うし

不^ふ免^{めん}も^もあ^あま^まき^きた^たら^らん^んぐ^ぐな^な肩^{かた}

形^{かたち}く^く船^{ふね}の^の地^ち中^{ちゆう}海^{かい}と^と目^め的^{てき}と^として^{して}西^{せい}へ^へと^と進^{しん}む^むる^るど^ども^も日^ひ
あ^あら^らず^ずマル^{まる}タ^た島^{しま}あ^あら^らたり^{たり}け^け島^{しま}も^も尚^{なほ}時^{とき}甚^い吉^{きち}利^り便^{べん}あ^あし
て^て地^ち中^{ちゆう}海^{かい}の^の中^{ちゆう}程^{ほど}あ^あり^り土^と地^ちま^まる^るど^ども^もあ^あり^り岩^{いわ}山^{さん}多^たく^く平^{へい}地^ち
少^{すく}る^るけ^けま^まど^どと^と要^{よう}害^{がい}の^の場^ばあ^ある^るも^もも^も外^{がい}寇^{こう}と^と防^{ぼう}禦^ごの^の為^{ため}
小^{せう}大^{だい}造^{ぞう}る^る臺^{たい}場^{ばう}と^と築^{きず}き^きる^る固^こ心^{しん}堅^{けん}固^この^の備^びへ^へあ^あり

海^{かい}中^{ちゆう}あ^あら^らの^のつ^つま^まり^りた^たま^まり^りし^し丸^{まる}太^{たい}島^{しま}

堅^{けん}固^こと^と港^{こう}の^の目^めあ^ある^る一^{ひと}一^{ひと}う^うは^はも

帆不をくらの丸太の端へ立てるもの

追風かぜをまわりの松の木ころもるる

是これよりマルタ島しまへ船ふねを寄せ風待かぜまちをみる

まふ弥やは布ぬい北きた八はちのふたりに列れいの通とほは布ぬいをと

て島しまの基もと壇だんと見物けんぶつせんとこ個こららつつま

る島しまの中ちゆうをあららつつま

西洋道中膝栗毛十一編上之巻了

かうのひ

のうー

と陸りくー

